

注意事項

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【タイトル】

Infinite Stratos 自由と運命の翼

【作者名】

ZEROの使い

【あらすじ】

俺はヒヨんな事からISを動かしてしまったのだ。

ISは女にしか動かせない物だが、世界に二人ISを動かせる男がいた。

その二人の運命やいかに。

第1話

「はじめまして、朱鳥真（あすかしん）と言います。よろしく願います」

俺は親の仕事の都合でアメリカに住んでいたが、ここ日本について先週戻って来た。

そして今は、転校した小学校の2年生のクラスで自己紹介をしている。

ちなみに俺の家は世界で二本の指に入ると言われているアスカ財閥である。

家族構成は父、母、兄、俺である。

父親の名前は、朱鳥重蔵（あすかじゅうぞう）でアスカ財閥会長

母親の名前は、朱鳥暮羽（あすかくれは）で会長婦人

兄貴の名前は、朱鳥希羅（あすかきら）で開発部部长

アスカ財閥は長男が跡取りと言う掟があるので、兄貴は次期会長である。

父親は名前に似つかずかなり温厚な人で、社員からは慕われている。

母親は優しいが、怒ると怖い。

そしてこの町に引っ越して来たのは兄貴とこの俺だけである。

何故かと言うと、兄貴が日本のアスカの会社で開発責任者になったからなのである。

ちなみに本社はアメリカと、日本にある。アメリカの本社に父親と母親がいる。

戻って来るのは兄貴だけで良いのだが、母親が

「真は日本に行ったことがなかったよね、ちょうど良い時に希羅が日

本に戻るから20歳になったらこっちに戻って来なさい」

と、言う事だ。

兄貴は反対したが、父さん（俺はこう呼んでいる）も母さんの方に
ついたので俺はここにいる。

父さん曰、「可愛い子には、旅をさせる」らしい。

俺は小学校2年生をするのは二回目だ。俺は向ここの学校で飛び
級して1年生から2年生に飛び級、さらに2年生になって5ヶ月後に
5年生に飛び級した。

そう、俺はかなり頭が良いのだ。何故かと言うと、俺の兄貴はハー
バード大学でロボット工学の博士号を取っていてIQ180は軽く
あるらしい。そして、兄貴に勉強を教えてもらったおれは《完全記憶》
と言う能力を持っている。一度見たもの、教えてもらった物は忘れな
いという事らしい。その能力のお蔭もあって、俺の頭は中学生程度の
問題なら解くことができる。

とっ、話がだいぶ長くなったな。まあ、俺の家族はこんな感じの家
族だ。

「皆さん、仲良くしてあげてくださいね。」

と先生が言うと

「はい」

とクラスのみみんなが元気よく返事をした。

俺は先生に促されて空いている席に座った。そしたら両横にいる
男子生徒の一人が小声で、

「初めまして。俺、織斑一夏（おりむら いちか）て言うんだ。一夏っ
て呼んでくれ」

と言われ、もう片方にいる男子生徒が

「俺、五反田弾（ごたんだだん）て言うんだ、弾と呼んでくれ」

と言われたので

「初めまして、弾、一夏。改めてよろしく」
と言うと、両横の弾と、一夏が嬉しそうに笑った。

俺が転校してきてから1週間の間に、一夏の幼馴染の篠ノ之篤と言う女の子とも仲良くなった。

それから2年後世界が一転することが起きた。

IS《インフイニットストラトス》が発表されたのだ。しかもそれを作ったのが篠ノ之束、つまり篤の姉が作ったのだ。俺が一番驚いたのが希羅、俺の兄がIS開発に加担していたのだ。

そして、ISが世界最強の兵器と示された事件が起きた。

《白騎士事件》

世界各国のミサイルがハッキングされ日本に向かって発射された。自衛隊は迎撃に向かうが数が多すぎてミサイル全弾撃ち落すことができない。日本は恐怖のどん底に落ちてしまった。しかしそこに、所属不明のISがミサイルのほとんど撃ち落とされた。日本には一発たりとも墜ちなかった。

ISが世界最強の兵器なのだがISには、重大な欠点があった。それはISが女性にしか動かせないという事だ。

ISが切っ掛けで、男女の社会的パワー一変し女尊男卑の世界になった。そして世界の国々、企業がIS開発に乗り出した。それはアス力財閥も例外ではなく兄貴と俺はアメリカ本社に戻ることもなくなった。

篤も政府の重要参考人プログラムによってこの町を離れることになった。

俺はアメリカに戻る日に一夏、弾が見送りに来てくれた。

「じゃあな、真また会おうぜ」

「ああ、また会おうぜい。一夏」

一夏は笑っていたが弾と言つと

「うっ、うっ。まだな真」

と、滅茶苦茶泣いていた。

俺は泣いている弾にハンカチを貸してやった。

「また会えるから、な」

「分かった。約束だぞ、真」

なんとか弾をなだめて、俺は兄貴と共にアメリカ本社に帰った。

それから6年後世界が震撼する事が起きた。

世界で初、男でISを動かす人が二人出てきた。その名は

織斑一夏と朱鳥真

第2話

織斑一夏と朱鳥真が世界で初めてISを動かせる事が発表される4週間前、アメリカのアスカ本社

「IS開発部」

そこにはIS開発部長の朱鳥希羅とIS開発部副部長の朱鳥真が座っていた。そして目の前に国際指名手配の人がいた。篠ノ之束という人が。

「やーやー、久しぶりだねー。キー君、真君。」

「おひさしぶりです、束さん」

(なんでこの人、ここに居るんだ。どう考えてもヤバイだろ。)

と、言つか何故兄貴はこつも自然に会話出来るのだろうか。て言うか、どうやって入ってきたのだろう。

ここのセキュリティ、アメリカ国防総省並みの硬さなのだが。

「どうして、何のようですか？束さん」

「いやー、夢中でIS作っていたら、大変な物が出来ちゃってねー。処理使用にも勿体無いので君にあげようかと思ってね。」

「一体どう言った機体なんです？」

「ひどーい。華麗に束さんのポケをスルーしていくよー。キー君」

何か急に泣き出したよこの人。

兄貴の方を見ると兄貴は溜息をついて。

「追い出しますよっ。」

と兄貴は笑いながら言った。

しかし、目はまったく持って笑っていなかった。

それに気づいたのか、束さんは急いでISを展開して置いた。

その機体はかなり変わった機体が置かれていた。

全身装甲《フル・スキン》であるのだ。

通常、ISの装甲は全身装甲ではなく部分的に装甲がついているのだが、目の前の機体は全身装甲である。

ISを見た兄貴は目を輝かせていた。

「なかなか面白いですね、束さん。全身装甲は思いつかなかったな」

「でしょ、でしょ。キー君。でもそれ起動しないんだよ。IS適正が高い人でも起動しなかった機体なんだよね。」

え、起動しないISってあるの？起動しなかったらタダの置物じゃないかと思いつつ、興味本位でISに触った瞬間。

「束さんでは、起動できないんですか？」

「残念ながら、束さんも起動できないんだよ」

開発者でも起動しないISで誰も動かせないんじゃないのか？

などと思いつつ、興味本位でISに触った瞬間。

ISが発光して、頭に大量の情報が流れ込んできた。

「な、馬鹿な。ISは女にしか動かせないはずなのに。何故、真に反応しているんだ？」

兄貴はかなりテンパっていた、が束さんはなぜか少し笑っていた。

そして俺の頭の中に言葉が響いてきた。

お前を気に入った

なんだと？

お前は力を欲しがっている

ああ確かに欲しいさ

どんな力が欲しい

俺の友達や仲間を脅かす奴らを殲滅する力が欲しい

いいだろう

頼むぞ、もう二度と人を失いたくない

結ぶか、この契約

いいだろう。結ぶぞその契約

s t a r t s y s t e m a c c e s

f i t t i n g s t a r t

o p e r a t i o n s y s t e m s t a r t

G e n e r a l

U n i l a t e r a l

Neuro link
Dispersive
Autonomic
Maneuver

GUNDAM

super dragon system access
start

推進器稼働確認

ハイパーセンサー最適化

destiny freedom gundam 起動

seedを持つ者よ、よろしく頼む

ああ、よろしく頼む。デスティニーフリーダム

俺の視界が白色からクリアになって行く。

目の前には唾然としている兄貴といつの間にかコンソールを叩いて、デスティニーフリーダムのデータを見ている束さんがいた。

「すごいねー。真君、世界で2番目にISが動かせる男になるなんて。」

ふーんなるほど、世界で2番目にISを動か、る？

待てよ、2番目？

「2番目え！」

俺と兄貴がハモった。

「そう、1番目だよー。1番目は3日前に見つかったんだよ。」

「なるほど、3日前だとまだ関係者にしか伝わってないはずだ」

「そうゆーことー」

なるほど、でも

「1番目は誰なんです？」

「真くんの知り合いだよー」

俺の知り合い？ はて

分からない。

「わかりません」

「正解は、1君です！」

ほうほう、1君とな。

えっ、1君てまさか！

「1夏なのか！」

「そっだよー」

「あいつ、ISと殆ど無関係なのに何処で動かしたんだ？」

「何でも、高校の入試会場に迷ってIS学園の入試会場でISを動かしたんだってー」

あいつ、何やってんだ。

「それでね、一君ねIS学園に入学させられたんだよー」

あいつ、不幸すぎだろ。

右手になんちゃらブレイカーでもあるんだろうか、あいつ。

「という事で、真君も入学しようかー。IS学園に」

「はあ、どうせ抵抗しても無理やり入れさせられるからいいですよも」
「う。」

「ヤッター！キー君もいいよねそれで」

「はい、IS学園のほつが安全ですしね」こよりは「

という事で、俺はIS学園に通う事になったのだ。

機体説明

朱鳥 真（アスカ・シン）

体重 54kg

身長 176cm

顔はガンダムseed destinyのシン・アスカと同じでいいです。

真の専用機

正式名所

zgmfx62as デステイニーフリーダム

武装

頭部バルカン砲×2

ソリドウス・フルゴルビームシールド×1

フラッシュエッジ ビームブーメラン×2

超射程ビーム砲×1

アロндаイトビームソード×1

ビームライフル×1

クスフィアス レール砲×2

カリドウス複相ビーム砲×1

スーパードラグーン突撃砲×8

特殊装備

ミーティア

ワンオフアビリティー

ミラーージュコロイド